



Professor Toshio Okazaki- Tsukuba University

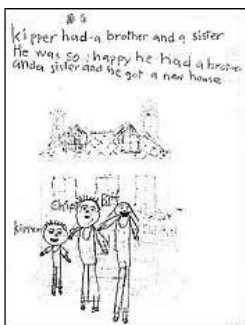
子供は楽しさに敏感です。親しみやすいユーモラスなイラストにつられて、テキストの文字が読めなくても想像力でおぎないながら、お話を追いかける。子どもは皆、キッパーたちの行動に共感し、話の展開にドキドキし、そして思いがけない結末にほっとしたり大笑いしたり。こうしてどんどん何冊も読み進むうちに、実は知らず知らずのうちに物語を読む力をいっぱい身につけ、ネイティブの子どもと同じような言語学習体験をしています。



Kevin Sensei's Reading Time - Using Big Books

「私はいつも片手で本を持ち、もう一方の指をポインターにして、よく使う名詞をさしたり、生徒の注意を引くのに使っています。生徒への質問はよくします。生徒のレベルに応じて日本語の時もあれば、英語の時もあります。文脈を組み立てながら、“What will they do next?” とか “What do you think will happen next?” のように質問します。

本を開く前に、まずカバーを見てどんなお話か想像します。Stage 1 (Kipper Storybooks)は4歳から5歳の幼稚園児に特に人気があります。たぶんキッパーに共感しているのでしょう。本を「読む」ことはしません。自分の言葉で、子どもたちが理解できる範囲の英語を使って「語り」ます。



"C"-chan loves the Reading Tree!

Cちゃん 6歳 ご家庭で。

お話がメチャクチャ面白くて、届いてすぐ、娘に読んでくれとせがまれ、30冊(ステージ4~7)を一気に読まされました(2時間近く読まされ続けました)。

(数日後、)初めて、Kipperを主人公にしたお話(?)を書き出しました。こんなことは今まで一度もなかったことです。やっぱりお話に魅力があり、よく見るとそれぞれのページに細かい作者の意図みたいなものがあるって...親子であんなに笑いながら読んだ絵本は今までありませんでした。

"Oh no! Bubbles!"

Yくん 2歳 ご家庭で。



昨夜、ORTのステージ2の本をはじめてYくんを読んであげました。私も初めて読んだのでかなりたどどしかったのですが、Yくん大興奮!

話の展開が面白いのか、笑ったり、「わーおー」「o-oh!」「Oh! No!」などと言いながら聞いているのです。一番驚いたのはKipper's Birthdayという本を読んだときのことで。

Kipperの誕生パーティーの席でDadが食器洗浄機の洗剤を入れすぎて、家中が泡だらけになったっていうお話なのですが、「Oh! No!! It's bubbles!!」とY君が叫んだんです。Yくんをここまで惹きつけるORTってすばらしい!!

A letter to Floppy

Rくん 4歳 ご家庭で。

今日は、フロッピーにお手紙を書いていたので驚きました。内容は;



Hello Floppy
I like your BOOK.
The story was about a fire.

以上でした。ORTによくでてくるフレーズですが、書いていたのを見ると驚きました。ORTは、CDを毎日何度も自分でかけて、そのまま遊んでいるのですが、絵本を出してきて、読んであげたこともない本もCDの通りに読んでいるのでびっくり。